

4 高等学校における一声事例

生活安全

	必ず指導する基本的事項	一声事例
I-1 登下校時の安全	① 友達と一緒に登下校すること。	「街灯の少ない道や人通りの少ない道は避けるようにしましょう。」
	② 防犯ブザーを鳴らし、点検すること。	「危険を知らせる術をもっておくことが安心につながります。」
	③ 登下校時、どこがどのようなときに危険か確認すること。	「夕方、暗くなった時間は、できるだけ友人と下校しましょう。」
	④ 電車やバスに乗るときは、痴漢・すり等に注意すること。	「ラッシュ時の駅の階段等で、盗撮の被害から身を守るためには、どうしたらよいでしょうか。被害に遭ったらどう対処したらよいでしょうか。」
I-1-2 校内での安全	① 自分の身の回りを整えること。	「普段からの整理整頓の習慣が、事故防止につながります。」
	② 活動するときや遊ぶときのきまりや約束を守ること。	「ルール違反をすることと安全とは、どのような関係があると思いますか。」
	③ 道具や遊具などを大切にし、正しい使い方をすること。	「道具の使い方を正しく知ること、けがを防ぐことができます。」
	④ 廊下や階段の歩き方、運動場やプールでの運動の仕方など施設の安全な使い方について確認すること。	「雨で、廊下や階段が滑りやすくなっているので、歩行の際に転倒しないように気を付けましょう。」
	⑤ 学校が定めた「不審者侵入時の緊急放送」を知ること。	「〇〇の放送があった時は、不審者の侵入があった時です。覚えておきましょう。」
	⑥ 不審者侵入時にとるべき行動を確認すること。	「不審者が侵入した際は、教室などに入り、ドアの鍵を閉め機などを置いて、部屋に入ってこないようにしましょう。」
	⑦ 防犯教室の目的を確認し、主体的に参加すること。	「身を守るための学習です。家族や周りの知り合いに説明すると思って参加しましょう。」
I-1-3 家庭生活での安全	① 家に帰って玄関を開ける前に注意することについて確認すること。	「家の鍵を開けるときは、開ける直前に鍵を出しましょう。」
	② 留守番をするときの約束を確認すること。	
	③ エレベーターに乗る前と乗るとき「は・さ・み」の約束を確認すること。	「『は・さ・み』の言葉の意味を覚えていますか。」
	④ 非常階段や屋上など、人目につきにくい場所の危険について知ること。	「普段から、危険だと思う場所を見付けておくことが大切です。」
	⑤ 友達の名前や電話番号などを知らない人から聞かれても応じず、すぐに学校へ連絡すること。	「自分自身はもちろん、特に弟や妹のいる人は、知らない人からの電話の対応の仕方を教えてあげましょう。」
I-1-4 地域や社会生活での安全	① 一人で行ってはいけない場所を確認すること。	「出掛けるときは、どこに行くか、何時に帰ってくるか、家の人に伝えましょう。」
	② 人通りの少ない道や街路灯の少ない場所など「入りやすく、見えにくい」場所を確認すること。	「普段から、人通りがある街路灯のある道を通りましょう。」
	③ 「 いかにおすし 」の約束を確認すること。	「『いかにおすし』の意味を確認しましょう。正しい判断をするためには、状況の確認が大切です。」
	④ 「子供110番の家」の場所を確認すること。	「困ったら駆け込める『子供110番の家』のマークを知りましょう。」
	⑤ 夜間の外出で注意することを確認すること。	「やむを得ず外出する場合は、どこで、誰と、何をしているのか、家族に必ず伝えましょう。」
	⑥ 事件や事故に遭ったら必ず保護者、警察、学校に連絡すること。	「不審者に遭遇したときは、保護者・警察・学校に必ず連絡し、報告しましょう。」
	⑦ 地域の犯罪防止活動を知り、自分にできることを考え、実行すること。	「地域で行われている犯罪防止活動について調べ、安全な行動を考えてみましょう。」
	⑧ 山や海・川に行くときに注意することを確認すること。	「出掛ける前は、旅行計画や内容及び緊急時の連絡方法を保護者に伝えて出掛けましょう。」
I-1-5 スマートフォン・携帯電話等使用時の安全	① スマホやゲームの一日の合計利用時間、使わない時間帯・場所を決めること。	「スマートフォン・携帯電話を使うときの約束を守って、安全に使用しましょう。」 「スマートフォン・携帯電話から離れると、どのようなことができるのかを考えてみましょう。」
	② 必ずフィルタリングを付け、パスワードを設定すること。	「一瞬の油断で危険なサイトにつながってしまう可能性があります。フィルタリングが付いているか確認しましょう。」
	③ 送信前には、誰が見るか、見た人がどのような気持ちになるか考えて読み返すこと。	「言葉の重みを考えましょう。」
	④ 個人情報や教えたり、知らない人と会ったり、自撮り画像を送ったりしないこと。	「自分の個人情報は絶対に書き込まないようにしましょう。」 「友人の情報や写真をインターネット上には絶対に掲載しないようにしましょう。」
	⑤ 写真・動画を許可なく撮影・掲載したり拡散させたりしないこと。	「許可を得て撮影した写真や動画でも、拡散しないようにしましょう。」 「入手したデータは、安全に管理しましょう。」
	⑥ ながらスマホ・携帯電話の使用は危険なのでやめること。	「自転車利用時や歩行中、駅のホームを歩きながらのスマートフォン・携帯電話の使用はやめましょう。」

交通安全

	必ず指導する基本的事項	一声事例
II-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用	① 道路における交通法規と安全な歩行の仕方を確認すること。	「登下校では、道路を広がって歩かないようにしましょう。」 「スマートフォンや携帯電話を使いながら、イヤホンで音楽を聴きながらの歩行はやめましょう。」
	② 通学路の交通事情や通学方法に応じた安全な通学の仕方を確認すること。	「信号のあるなしにかかわらず、交差点や十字路を通過する際、車や自転車に注意しましょう。」 「早めに家を出て、ゆとりをもった登校を心掛けましょう。」
	③ 交差点を横断する際の危険について知り、安全な歩行の仕方を確認すること。	「信号のあるなしにかかわらず、交差点では車、自転車に気を付けましょう。」 「交差点に入る自動車がないことを確認してから渡りましょう。」 「右左折の自動車に十分に注意して渡りましょう。」
	④ 青信号で横断歩道を渡る際は、すぐに渡らず左右の安全を確認すること。	「青信号だから、相手が『止まるだろう』ではなく、『止まらないかもしれない』と考えて、無理に渡ることはやめましょう。」
	⑤ 雨や雪の日の安全な歩行の仕方を確認すること。	「雨や雪の日の歩行について、気を付けることは何ですか。」 「傘で視界が悪くなると視線が足下にいきやすいので、周りに気を配りましょう。」 「雨や雪の影響で交通機関に影響が出た場合に、安全面で気を付けることは何ですか。」
	⑥ 明るい色の服装や反射材の効果を知ること。	「自動車の運転者から、自分の存在を確認してもらえるようにしましょう。」
	⑦ 安全な集団歩行の仕方を確認すること。	「他の人の迷惑にならないように配慮しましょう。」
	⑧ 踏切事故の原因と非常ボタンの取扱いについて知ること。	「遮断機が降り始めたら、踏切を渡ることは、やめましょう。」 「踏切内に閉じ込められたら、非常ボタンを押しましょう。」
	⑨ 幼児や高齢者、障害のある人に対して、どのような配慮が必要か考えること。	「幼児や高齢者の方の横を追い抜くときは、一声掛けましょう。」
	⑩ 公共交通機関利用時に想定される危険について考えること。	「電車やホームで、他の人の迷惑になる行為はやめましょう。」
II-2 自転車の安全な利用と点検・整備	① 自転車の安全な利用の仕方を確認すること。	「自転車は、車道の左側を一列で走行しましょう。」 「歩道は、歩行者優先で、車道寄りを徐行しましょう。歩行者がいたら、自転車から降りるか、車道を走りましょう。」
	② 雨天時や夜間の安全な走行の仕方を確認すること。	「傘を差しての自転車運転は、交通ルール違反です。雨の日は、自転車での登下校をやめるか、雨の日は雨合羽を着用しましょう。」 「ライトは必ず点灯させましょう。反射板の向きを確認しましょう。」
	③ 自転車に関する基本的な交通法規を知り、必ず守ること。	「なかなか守れない並進や一時不停止、事故は待ってくれません。」 「スマートフォンや携帯電話を使用したり、イヤホンで音楽を聴いたりしながらの運転は禁止です。」
	④ 自転車の点検と整備をすること。	「ブレーキなどがおかしいと思ったら、すぐに修理しましょう。」 「自転車の点検と整備は自己責任です。整備不良の自転車は絶対に乗らないようにしましょう。」
	⑤ 加害事故の責任と補償制度を知ること。	「自分が加害者になることもあることをしっかり意識して、自転車損害賠償保険等に加入しているか確認しましょう。」
	⑥ 自転車乗用時のヘルメットの必要性について考えること。	「ヘルメットで頭を守ることが、命を救う可能性を高めます。」 「自分に合ったヘルメットを必ず着用しましょう。」
II-3 特性と心得 一輪車・自動車の	① 車両事故の特徴を知り、安全な歩行や走行の仕方を確認すること。	「大型車が通行しているときは、必ず前後左右をしっかりと確認をして、道路を通行しましょう。」 「将来、自動車を運転する立場でも考えましょう。」
	② ヘルメットやシートベルトの効果を知ること。	「ヘルメットやシートベルトで、自分の身を守りましょう。」
	③ 自動車の種類による死角と内輪差や、晴れの日と雨や雪の日の自動車の停止距離の違いなどを知ること。	「交差点で左折してくる車両に巻き込まれないようにするためには、どのようなことに気を付けなければなりませんか。」
II-4 交通事故防止と安全な生活	① 地域の交通安全活動を知り、参加すること。	「地域の小学生の模範となる自転車の乗り方をしているか、振り返ってみましょう。」
	② 交通事故が起こったときの通報や対応の仕方を知ること。	「交通事故が起こったときは、相手の命やけがの程度を確認し、すぐに110番と119番に連絡しましょう。」
	③ 応急手当の仕方を確認すること。	「授業で学んだ胸骨圧迫や人工呼吸、AEDが使えるように、手順を確認しておきましょう。」
	④ 自分たちにできる交通安全活動を考え実行すること。	「思いやりをもって譲り合える交通社会人になりましょう。」 「交通社会人として、地域社会の模範になりましょう。」

理論編

学校における安全教育と安全プログラム

安全教育で身に付ける力

安全教育の3領域

必ず指導する基本的事項

安全教育の確実な実施のために

安全教育の計画

安全教育の評価

安全教育の計画例

実践編

実践事例の一覧

生活安全における実践事例

交通安全における実践事例

災害安全における実践事例

一声事例(校種別)

資料編

	必ず指導する基本的事項	一声事例
Ⅲ-1 火災時の安全	① 「おかしも」の約束や避難経路、避難場所を確認すること。	「校内の避難経路を確認しましょう。」 「特別教室からの避難経路も確認しましょう。」
	② 火災の原因と危険について知ること。	「火災の原因として、どのようなものが考えられるでしょうか。」
	③ 火災に対する心構えと安全な行動の仕方を確認すること。	「火災を発見した場合は、周りに大声で伝え、初期消火を行うなど冷静に行動しましょう。」 「煙を吸い込まないように、低い姿勢で、鼻と口を濡れたハンカチ等で覆って、避難しましょう。」
	④ 初期消火の方法を確認すること。	「校内にある消火器の設置場所を確認しましょう。」 「消火器を使って、火を消すことができますか。」
Ⅲ-2 地震災害時の安全	① 緊急地震速報の利用の心得を確認すること。	「緊急地震速報を聞いたら、まず、物が『落ちてこない、倒れてこない、移動してこない』場所での自分の身を守りましょう。」
	② 地震発生時の危険について知り、対処の仕方を確認すること。	「『地震だ。まず身の安全』を実践できるようにしましょう。」 「道路上で地震が起きたら、どのように自分の身を守りますか。」
	③ 集団で避難するときの「おかしも」の約束を確認すること。	「『おかしも』の意味を説明できますか。」
	④ 避難経路、避難場所を確認すること。	「教室で、大きな地震が起こったとき、落ちてきそうなもの、倒れてきそうなもの、移動してきそうなものは何でしょうか。」
	⑤ 家庭での地震の備えについて考えること。	「家具の転倒防止対策はされているか、電気・ガス・水道の供給の停止時にどのように対処するかを家族で確認しましょう。」
Ⅲ-3 時の安全 火山災害	① 安全な避難場所と避難の仕方を確認すること。	「登山等に行くときは、避難場所や避難方法を事前に調べてから、出発しましょう。」
	② 火山活動による危険を知ること。	「日本は、火山列島です。伊豆大島噴火、三宅島噴火について調べてみましょう。」
Ⅲ-4 気象災害時の安全	① 風水害のときの危険を知り、安全な行動の仕方を確認すること。	「暴風雨の恐ろしさを、地域の防災教育施設（東京消防庁防災館等）で体験してみましょう。」 「身近な地域の『洪水ハザードマップ』を調べてみましょう。」
	② 落雷に遭わない安全な行動の仕方を確認すること。	「急に空が暗くなったり雷鳴が聞こえたりしたら、何をしますか。」 「雷が鳴ったら、樹木に近付かず、すぐに屋内に避難しましょう。」
	③ 竜巻発生時の危険について知り、安全な行動の仕方を確認すること。	「竜巻を確認したら、頑丈な建物の中に避難します。」
	④ 降雪時の安全な登下校の仕方を確認すること。	「積雪後は、路上が凍って危険です。慎重に行動しましょう。」
	⑤ 落雪が起こる仕組みや雪害の影響について知ること。	「大雪が東京に降った場合、どのような影響が予想されるでしょう。」 「積雪時には、交通情報や道路情報を必ず見ましょう。」
	⑥ 特別警報等、気象災害に関する情報について知り、活用すること。	「気象情報の入手方法を知りましょう。」
Ⅲ-5 時の安全 原子力災害	① 原子力災害による放射線放出と安全対策について知ること。	「風評被害を広げないようにするために、自分ができることは何でしょうか。」
	② 放射線の身体への影響について知ること。	「被曝量と身体への影響との関係について調べてみましょう。」
Ⅲ-6 避難所の役割と貢献	① 避難所の役割を知ること。	「高校生として、避難所運営訓練に積極的に参加しましょう。」
	② 避難所の生活を知り、自分たちにできることを考えること。	「高校生は、助けられる側ではなく、助ける側です。どのようなことができるでしょうか。」
	③ 災害ボランティア活動に積極的に参加すること。	「ボランティア活動で、自分が力になれることは何ですか。」 「高校生として、応急手当やけがの人の搬送に協力しましょう。」
	④ 避難所となる学校や公的機関は、どのような備えがあるのかを知ること。	「学校は避難所として、どんなことを期待されているでしょうか。」 「学校の備蓄倉庫はどこにありますか。中には、何が備えてありますか。」
Ⅲ-7 災害の備えと安全な生活	① 地域の避難訓練・防災訓練に積極的に参加すること。	「避難訓練や防災訓練は、学校だけでなく、地域でも行われています。参加してみましょう。」
	② 家庭での連絡方法を家族と相談し、決めること。	「日頃から、緊急時の連絡方法について家族で話し合っ、確認しておきましょう。」 「スマートフォンや携帯電話が使えないとき、どのような連絡を取ればよいでしょうか。」
	③ 家庭での災害に対する備えに積極的に関わること。	「家庭の災害対策における自分の役割は何でしょうか。」
	④ 応急手当の仕方を確認すること。	「日頃から、共助に必要な知識・体力・技能を身に付けておきましょう。」 「血を流して倒れている人に止血するとき、何に気を付けますか。」
	⑤ 消防・警察・自治体等の公助の役割を理解すること。	「災害時の消防や警察、自治体の役割について調べましょう。」
	⑥ 消防団や自主防災組織の役割について知ること。	「学区や居住地域の防災の課題から、自分ができることを考えましょう。」

学校の実態に応じた、オリジナル「一声事例」で指導しよう

「危険を予測し回避する能力」と、「他者や社会の安全に貢献できる資質や能力」を育てるために、子供たちにどのような一声を掛けますか。

安全に関する知識を習得させる一声や、危険を予測し、判断する力を育てる一声、日々の生活において安全に生活しようとする意識を高める一声など、学校の子供たちのことを思い浮かべながら、一声指導を考えてみましょう。

一声事例	
生活安全	
交通安全	
災害安全	

※一声事例の内容を、A4判一枚にまとめた指導資料が東京都教育委員会ホームページに掲載してあります。週ごとの指導計画（週案簿）等に貼るなどして活用することができます。